



【校訓】
主 愛 磨 勞
自 友 練 勤

ぜひとも育みたい「感情」

校長 川口 孝

高校の推薦合格を果たした生徒達に任意で、一般入試に先んじて合格したことによる学校生活の充実を図る目的で、毎週水曜日に、読書感想を校長室で「報告」してもらっています。強制ではありませんが、一部の生徒たちが自主的に毎週、「報告」に来てくれます。初回はみんな緊張していましたが、3回目の頃には随分生き生きと話してくれるようになりました。読んだ本の感想を聴くことはもちろん、それから広がる会話など、私にとってはちょっとした楽しみな時間となっています。校長室を出て行く生徒の姿を見届けるたびに、慢心することなく中学校生活を有意義に過ごしている様子が感じられます。

「自己肯定感」という言葉があります。「自己肯定感」とは読んで字のごとく、自分の価値や存在意義を肯定できる感情を言います。自己肯定感の高い人は、ありのままの自分を認めることができ、他者も認めることができる。自分に自信がもてるから困難も乗り越えられます。これと似た言葉に「自己有用感」があります。「自己有用感」は、誰かの役に立っている、貢献している等、自分が有用であると思える感情を言います。誰かに必要とされた、人に喜んでもらえたなど、他人の存在なしでは生まれない感情であり、この点で自己肯定感とは異なります。

ところが、自己肯定感が高ければ自己有用感も高いかといえば、必ずしもそうとは限りません。「自分は能力があるのに、周りが認めてくれない。うまくいかないのは、親や学校、周りの人たちが悪いからだ。」と、すぐ他人に責任転嫁する人がいたとします。これは、自己肯定感だけが低い例です。

先ほどの生徒達のように、一般入試の生徒より先に合格内定をもらったとします。「自分は、推薦を認められて、推薦合格内定を得ることが出来た。だから、学校の期待に応えられるように残された学校生活を充実させ、他の仲間の受験モードを応援する立場になりたい。」これは、他者から認められ、期待されているという自己有用感を伴った自己肯定感です。単に「推薦で合格した」という自信ではなく、他者のためになにがしか貢献したい、という思いが高まっている。本人にとって「合格した」かどうかは、さほど重要ではなくなっていると言えるでしょう。

このように、自己肯定感を高めるには、まず、自己有用感を高めることが大切です。奉仕活動や職場体験学習等の他者との交流体験を通して、他者を好意的に受けとめたり、他者との絆や社会とのつながりを感じとったりする中で「自己有用感」は獲得されていきます。学校と家庭とが連携して、これらのことを意識しながら、子どもに関わっていく必要があります。学校では日常の授業や、三大祭、生徒会活動、清掃活動、宿泊学習や様々な行事をとおして指導して参ります。御家庭でも、ぜひ、意識して取り組んで頂けたらと思います。

「確かな学力」の定着に向けて

～令和5年度 鹿児島学習定着度調査（1・2年生対象）～
 毎年1月に行われるこの調査は、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等に関する学力の定着状況を把握するために行われています。定着の低かった各分野を把握し、自分の課題を把握して学習に取り組みましょう。家庭においても学習時間の確保をお願いします。
 ※県との比較（（+）・・・県より高い、（-）・・・県より低い）

| 教科 | 1 年 生 | | 2 年 生 | |
|-----|------------|------|------------|------|
| | 本 校 | 県 | 本 校 | 県 |
| 国 語 | 71.6(-4.3) | 75.9 | 62.1(-3.5) | 65.6 |
| 社 会 | 62.3(+7.9) | 54.4 | 63.9(+1.6) | 62.3 |
| 数 学 | 77.1(+2.8) | 74.3 | 72.6(+3.8) | 68.8 |
| 理 科 | 71.7(+5.4) | 66.3 | 66.3(-0.6) | 66.9 |
| 英 語 | 77.8(+0.8) | 77.0 | 80.4(+9.0) | 71.4 |

「心走」 2月9日(金)



2年生の立志講演会に、元鹿児島実業高校駅伝部監督の上岡先生を招聘しました。40年間の監督生活を振り返った講演は、静かな語りの中にも迫力がありました。「中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言いつくす。」など、上岡先生の話に、自らを振り返る貴重な時間になりました。

「好き」という力 2月22日(木)



1年生の進路講演会に、ラジオのDJ等で活躍されているスマイリー園田さんを講師として招聘しました。スマイリーさんの軽快で熱いトークに1年生も引き込まれていました。笑いあり、感動あり、全員合唱ありの盛りだくさんの講演でした。講演後も各クラスを回っていただきました。

プレゼントのお礼 2月29日(木)



家庭科の授業で、中学3年生は、地域の保育園等を訪問して幼児と触れ合う「幼児ふれあい体験」を毎年行っています。本年度は、コンセプトとして、安全性に特化した、かつ幼児が発展的に知識を習得できるおもちゃを考案し、制作して持って行ったところ大変好評で、玉里団地保育園の幼児と保育士の方々が、わざわざ、お礼を伝えに中学校に来校してくれました。

受賞・入賞関係等 (敬称略)

| |
|---|
| 第37回東洋大学「現代学生百人一首」 入選：上園（2年） |
| 第66回鹿児島県児童生徒作文コンクール 入選：住本（2年） |
| 鹿児島県中学校音楽コンクール春の祭典 銀賞：2年1組（指揮：中島、伴奏：住本） |
| 若山牧水青春短歌大賞 入選(佳作)：平川（3年） |

＜スクールカウンセラー（SC） 3月の来校予定日＞

○市 SC（黒松先生）・・・3/4(月)、3/11(月)、3/18(月)
 相談希望の方は事前に学校（220-5661）までご連絡ください。